

# マイクロ・ラジオニクス

＊この装置でレメディ・ポテンタイザーの代用はできません。内部の回路がまったく違います。なによりダイヤルの数が違います。

友人が出張用に欲しいということで、とても小さいラジオニクス装置を作りました。13cm x 6.5cm x 3cmです。マッチ箱で大きさをご理解いただけるでしょうか。

スティックパッドは、Mind Craftでいろんな素材を試した結果、最善と思われるガラスエポキシ製です。



スティックパッド部分を広くとってありますが、ちゃんと5つダイヤルもついてます。内部の配線はデラワータイプにしてみました。



プローブもつけてみたので、このようにどこでも波動測定ができます。



ちょっとラジオニクスの波動測定、調整方法の基本を思い出してみましょう。

1. サンプルいれ（上だと缶のふたですね。）の中でウィットネス（サンプル）を回転させながら、CRP(Critical Roting Point)をみつけます。スティックパッドで反応があるはずですが、地球の磁場とサンプルが共振状態に入るポイントです。
  2. ウィットネスがもつ特性（症状など）を調べるべく、ダイヤルをひとつずつ回転させながら、スティックパッドで反応を見ます。5ダイヤル全部終われば、そのウィットネスの特性（症状）をあらわした、レートとなります。メモします。
  3. その特性（症状）を強化したい場合はそのまま、打ち消したい場合は差率レート（この装置では「9から今出ている数値を引く。ただし5は9にする」）をセットします。
  4. これでしばらくおくことで、ウィットネス（サンプル）の特性が変わります。
  5. 使い終わったら、波動をクリーンにするために周囲で永久磁石をまわしましょう。
- 以上が測定と調整の基本です。応用として、4の段階でウィットネスをはずしミネラルウォーターなどをおけば、「波動調整水」はできますね。

なお、通常のラジオニクス装置と異なりダイヤルが9までしかありませんが、心配はいりません。ラジオニクス装置の研究者によると（日本人にもアメリカ人にもいます）レートダイヤルの0と10は同じ意味をもっているのではないかと、という研究結果があります。**この装置でレートブックを使う場合は10は0としてください。**

もって歩く方は慣れた方だと思います。独自の使い方をされることでしょう。私の知人はスティックパッドを主に使い、ダイヤルはレートのメモ代わりだそうです。

小さいだけに箱がすべらないように、底にはゴム足をつけました。もう、職人のこだわりとしかいいようがない（苦笑）



製品としては、本体とプローブをおつけします。かばんに入れていきたい方、初心者でちょっと試してみたい方にもおすすめできると思います。

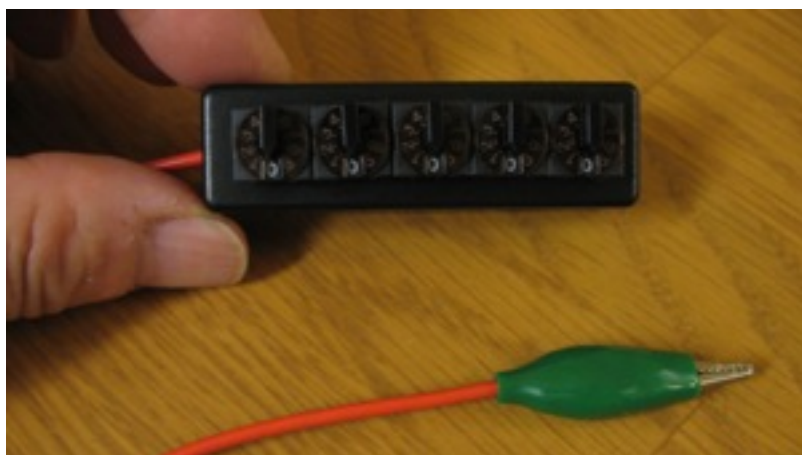


とはいえ、この装置は販売し始めてから相当な台数が出ました  
これだけで治療されている方もおられます。

# マイクロチューナー

さらに測定した波動レートを継続して与えるための装置も用意しました。これにより、マイクロラジオニクスで設定したレートをマイクロラジオニクス本体がなくても、放射することができます。

本格的なラジオニクス装置の補助としても問題ないと思います。とても小さいので、ちょっとしたところに使えると思います。



- ・
- ・